ISSN 1348-9801

Forest Winds（フォレスト・ウインズ）

もりからのかぜ・東北

No.46 September 2011

「緑の回廊」での野生動物モニタリング

森林生物の多様性を守る「緑の回廊」

林野庁は、野生動植物の遺伝的交流を図り生物多様性を保全する目的で、保護林を連結する「緑の回廊」の設定を推進しています。東北森林管理局では、全国に先がけて2000年に青森県八甲田から山形県蔵王まで奥羽山脈の稜線に沿って、長さ約400km、幅約２kmの、奥羽山脈「緑の回廊」（図１）を設定しました。

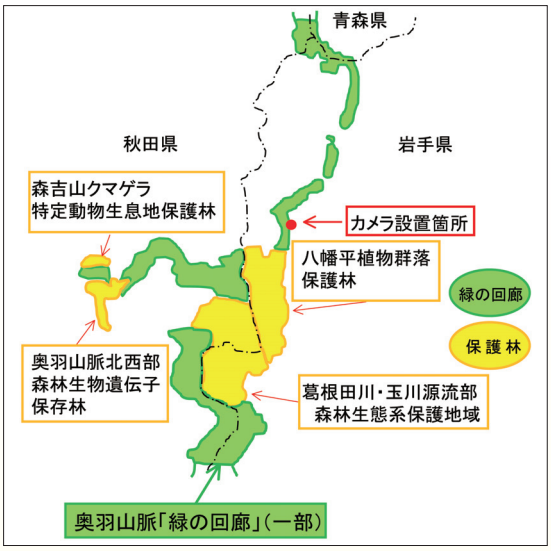

図１　「緑の回廊」野生動物モニタリング調査箇所

自動撮影によるモニタリング

東北森林管理局と森林総合研究所東北支所では、この「緑の回廊」における野生動物の生息状況を明らかにするために、岩手北部森林管理署管内安比岳国有林のブナ林（標高800～850m）で、ビデオカメラとセンサーカメラによるモニタリングを行ってきました。ビデオカメラによる観察は2000年９月から３台〔昼間用２台（写真１）と暗視用１台（写真２）〕のカメラで開始し、テープに記録した画像を定期的に回収して解析を行っています。また、2009年５月からは、動物の体温を感知してシャッターが切れるタイプのセンサーカメラ（写真３）も３～４台追加して観察を始めました。

写真１　昼光用カメラ

写真２　暗視カメラ

写真３　センサーカメラ

2011・国際森林年
FFPRI
独立行政法人　森林総合研究所　東北支所
Tohoku Research Center, Forestry and Forest Products Research Institute

「緑の回廊」を利用する動物たち

これまでに、ノウサギ、ニホンリス、ツキノワグマ（写真４・５）、キツネ、タヌキ、テン、アナグマ、とカモシカ（写真６）など、この地域に生息すると思われるほとんどすべての中大型哺乳類が観察されました。なかでも、東北地方の森林を代表する大型哺乳類で「緑の回廊」の設定に際して指標種ともなったツキノワグマが毎年何度も確認されていることから、この場所は「緑の回廊」として有効に機能していると考えられます。

写真４　ツキノワグマ

写真５　ツキノワグマ

写真６　カモシカ

新たに出現したハクビシンとニホンジカ

2008年７月には、岩手県では標高の低い地域でしか確認されていなかったハクビシン（写真７）が観察され、ブナ林地帯にも分布を広げていることがわかりました。また、2011年７月には、岩手県の奥羽山脈側では見かけることのなかったニホンジカ（写真８）も観察されました。これら２種は、隣接する保護林からの生息情報はないことから、「緑の回廊」を利用して分布を広げてきたものではないと考えられます。ともに全国的に生息域を拡大しており、農林産物への加害が心配される動物であるため、今後の動向には細心の注意を払う必要があります。

写真７　ハクビシン（但し、撮影地は岩手県滝沢村）

写真８　ニホンジカの若い雄

継続することが大切

「緑の回廊」の有効性についての科学的調査はまだ始まったばかりです。、また、「緑の回廊」の機能を高めるために様々な森林施業も行われていますが、これらの効果を確認するためにも、モニタリングを継続することが望まれます。

岩手北部森林管理署関係各位のご協力により、10年を超えるモニタリングを継続することができました。早稲田大学三浦慎悟教授並びに森林総合研究所野生動物研究領域の岡輝樹チーム長には、カメラ設置場所の選定に際してご教示いただきました。心から感謝申し上げます。

●生物多様性研究グループ　鈴木悟
〃　島田祥
●東北森林管理局　岩手北部森林管理署　竹田卓
〃　指導普及課　青山惣一郎

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
R100
この印刷物は再生紙を使用しています。
VEGETABLE OIL INK

Forest Winds No.46
平成23年９月12日発行
独立行政法人　森林総合研究所　東北支所
岩手県盛岡市下厨川字鍋屋敷92-25
〒020-0123　Tel.019(641)2150㈹
Fax.019(641)6747
ホームページ　http://www.ffpri-thk.affrc.go.jp